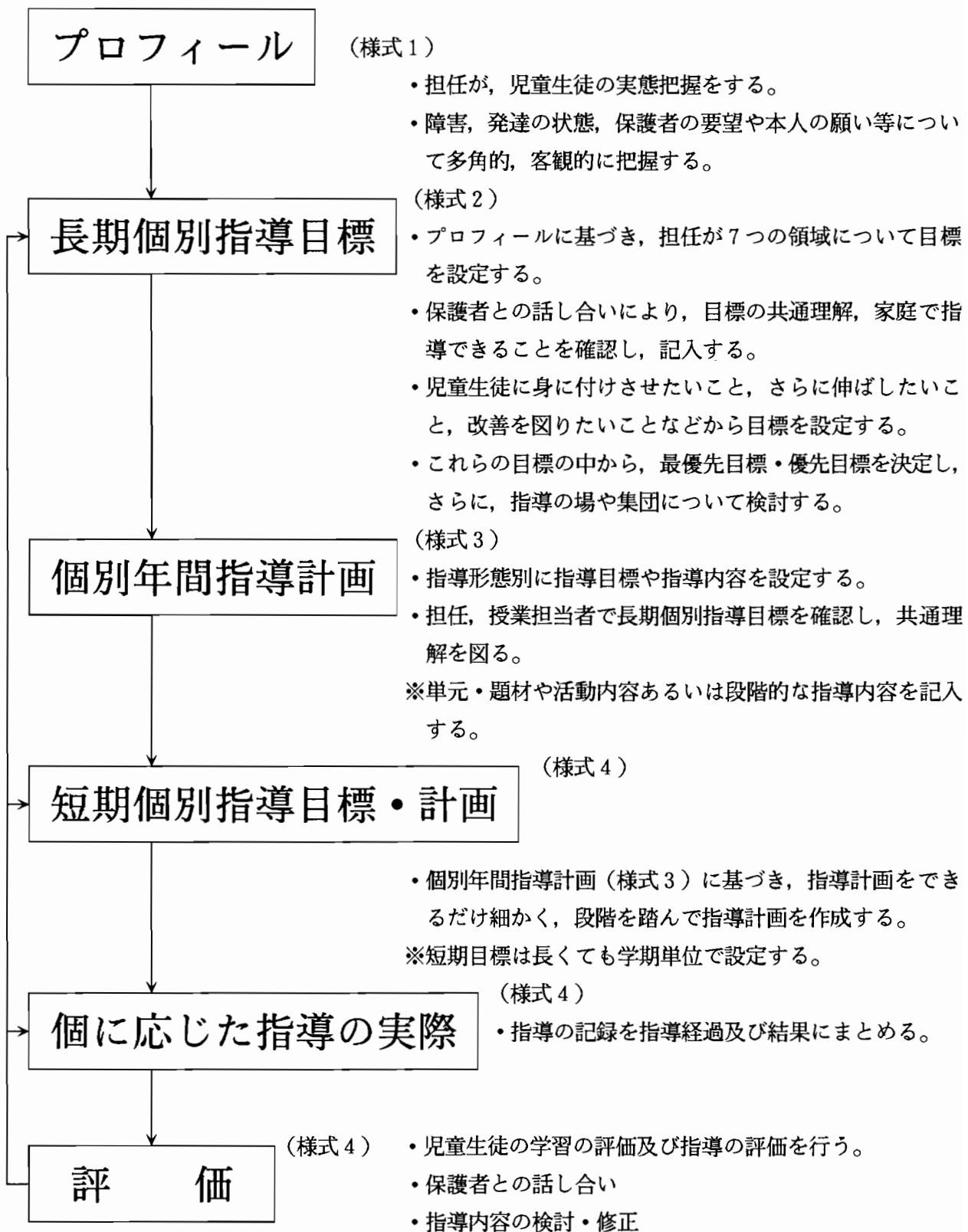


7 精神薄弱養護学校

(1) 個別指導計画作成の手順



(2) 小学部1年の事例

(様式1)

プロフィール

		記入者 ○○ ○○	記入日		平成8年○月○日
氏名	○○ ○○	学年	小1	生年	平成2年○月○日生
障害名	精神薄弱、先天性脳梁形成不全性別				男 (6) 歳
家庭の状況	父、母、姉(小4)、祖父、祖母、本人の6人				
家族構成					
生育歴 (相談歴)	7ヶ月 ○○○センターで歩行訓練と心理指導を受ける。 3歳 ○○○園に通園				
これまでの指導	・言葉 4歳10ヶ月 ・始歩 4歳 4ヶ月	諸検査	遠城寺式・乳幼児分析的発達検査 基本的習慣(1:2~1:3) - 略 - 社会生活能力検査(H8年6月) S Q 3 5, S A 2歳3ヶ月		
指導目標及び達成度					
実態	健康・体力	風邪をひきやすく、季節の変わり目には時々発作をおこす。体温調節がうまくいかず、夏季に熱が上がることがある。			
	基本的生活習慣	かぶりの上着などもう少しで脱げる所まで介助してあげると、自分で引っ張って脱ぐことができる。排泄は未定着。食事は少量で自分の好きなもの、汁物はあたたかいものしか食べない。			
	意志交換能力	身近にある物の名前はよく理解しており、指示された絵カードをとったり、絵本の絵を指さすことができる。また、今日の出来事や印象に残っていることを二語文程度で話すことができる。			
	集団参加能力	遊びの場面では一人遊びが多く、すべり台や三輪車を押していることがある。朝の会などでは、ふざけて友達の髪の毛をひっぱったりすることがある。欠席した児童の名前が分かる。			
	作業能力	教師の声かけを受けて、指示された物を机に置いたり、フックにかけたりしようとする。			
	知的能力	身近にある物の名前をよく理解し、言うことができる。基本的な色の名前が分かるが、大小の区別はつかない。			
情操	情緒・情操	普段はおっとりしているが、大人が困ることを繰り返しやって楽しむところがある。また、気に入った擬音を何回も言って興奮することができる。うまくでききたことをほめられると、手をたたいて喜ぶ。			
	行動特徴	おとなしいが、大人のやることをよく見ており、面白かったことを後から繰り返し話すことを好む。			
保健・医療情報	これまでに肺炎で3回入院。				
保護者の要望 ・本人の願い	発育が遅く、体力的にも弱いことから、学校生活に慣れ、体調を維持していくことを第一と考え、排泄や食事などの基本的生活習慣を伸ばしていきたい。				

平成8年度 長期個別指導目標

(様式2)

小学部 1年〇組 場面 領域	氏名 ○○ ○○ 作成者 ○○ ○○	作成日 平成8年〇月〇日
	学 校	家 庭
	指導目標及び指導の場(個別または集団)	目 標
健 康 ・ 体 力	<ul style="list-style-type: none"> ○散歩など歩く機会を増やし、安定して歩行できるようにする。(集団) ・基本運動(四つばい、高ばい、横になって回る)を中心に体力の向上を図る。(集団) 	<ul style="list-style-type: none"> ○散歩の機会を設け、体力の向上を図るとともに、安定した歩行ができるようにする。
基本的生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ◎定時排泄の習慣の確立。(個別) ○偏食を少なくし、食事の量を増やす。(個別) ・靴の履き替え、衣服の着脱技術の向上。(個別) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定時排泄の習慣を確立する。
意志交換能力	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で必要なことを尋ねたり要求を出したりする。また、質問に対して「誰がどうしたか」を応答できる。(個別) 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい経験を積む中で、その出来事に関する言葉が断片的にでも出てくるようにする。
集団参加能力	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会やゲーム遊びに参加することを通して、教師や友達とかかわる力を育む。(集団) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の中で、1日の見通しを持って生活できる。
作業能力	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、フックにひもをかけたり、バッグに物を入れたりなどの活動を通して、手指の操作性を高める。(集団) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の活動を通して、手指の操作性を高める。
知的能力	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居やパネルシアターを通して、登場人物や主な出来事が理解できるようになる。(集団) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、言葉を増やしたり、出来事を話したりできる。
情緒・情操	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい出来事をたくさん経験することにより、情緒の安定を図る。(集団) ・刺激を制限することにより、興奮を押さえて、活動に取り組めるようにする。(個別) 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい出来事をたくさん経験することにより、情緒の安定を図る。

◎最優先目標

○優先目標

※7領域にあげたすべての目標の中から最優先目標、優先目標を決める。

平成8年度 個別年間指導計画

(様式3)

小学部 1年〇組	氏名 ○○ ○○	作成者 ○○ ○○	作成日 平成8年〇月〇日	
場 領 域 月	学 級	学部・学年	個別指導 家庭	
	日常生活の指導		日常生活の指導 ・体力向上と安定歩行の確立	
目標	・身辺処理能力の向上を図る。		・教師の補助を受けて定時排泄ができる。 ・定時排泄の確立	
- 略 -				
9	・上着を両手で引っ張り、頭の部分が脱げる。			
10	・手でズボンを押さえて足を通す、抜く。		・1日に2、3回、便器の前で排泄する。	・散歩の機会を多く設ける。
11	・片手で押された靴に足を入れる。		・休み時間毎に便器の前で排泄する。	
12	・冷めた物や嫌いな物を、少量でも口に入れて食べる。			
1	・上着を脱ぎかけた途中から脱げる。		・2時間おきに便器の前で排泄する。	・体調に留意しながら戸外の活動を楽しむ。
2	・一人でズボンを押さえて、足を通す、または抜く。			
3	・食べられる量を少しずつ増やす。		・排泄を予告し教師と一緒にトイレへ行く。	

(様式4)

平成8年度第2学期短期個別指導目標・計画・評価

学部・学年・組	小学部 1年〇組	作成者	○○ ○○	作成日	平成8年〇月〇日					
氏 名	○○ ○○	評価者	○○ ○○	記入日						
指導形態(単元・題材名)	日常生活の指導(排泄指導)									
指導期間	8年9月2日(月) ~ 8年12月21日(土)									
指導目標										
・教室のトイレで排泄することを理解し、教師の補助を受けて定時排泄ができる。										
指導計画(スマーリステップで計画するようにする。)										
9月2日(月) ~ 9月30日(月) 便器の前でしゃがんで、安心して排泄できる。										
10月1日(火) ~ 10月31日(木) 1日に2、3回便器の前で排泄することができる。										
11月1日(金) ~ 12月21日(土) 休み時間毎に、便器の前で排泄することができる。										
指導の手立て及び教材、教具										
安心して排泄でき、トイレまでがまんする習慣をつけるために「○○が終わったら先生と一緒にトイレへ行こう。それまでがまんしててね。」と声かけする。トイレでできた時はほめ、ふざけている時は最小限の対応をし、排泄することに集中させる。										
指導の経過及び結果										
9月…第1週～第2週 給食後すぐにトイレに連れて行くと、もらしていない時があり、10分位トイレにいると、しゃがんで排泄することができた。										
第3週 給食後以外の休み時間にももらっていない時があり、便器の前で2～3分のうちに排泄することができるようになる。便器の前でしゃがんで力んでいる様子が見られる。										
指導の反省及び課題										
- 略 -										

(3) 小学部3年の事例

(様式1)

プロフィール

		記入者	○ ○ ○ ○	記入日	平成8年 ○月 ○日
氏名	○ ○ ○ ○	性別	男	生年 月日	昭和62年○○月○日 (8)歳
家庭の状況 家族構成	父、母、祖父、祖母 兄弟はなく、祖父母との同居ということで、かなり甘やかされて育っている。				
生育歴 (相談歴)	H5. 4月 ○小学校入学。 H7. 10月 ○小学校特殊学級入級。 H8. 4月 ○養護学校へ転校。				
これまでの指導 指導目標及び達成度	〈基本的生活習慣〉 大便が出るのが自覚できず、学校では午前中～廻、午後1～2回失禁する。自分から出たことを伝えることは難しい。 着替えは、前後左右を取り違えることが多い。	〈学習の理解状況〉 ひらがなはだいたい読めるが、文章にすることは難しい。 数字の読み書きは出来るが、概念形成はまだ困難である。	〈社会性〉 自分から友達に話し掛けることはほとんどない。 グループ編成時、離籍することが多い。 日常会話が成立しやすく、繰り返し個別に指導が必要である。		
諸検査	S M社会生活能力検査 S A = 5 : 4 平成8年5月実施				
健康・体力	体を動かすことは好きで、走ったりとんだりする。				
基本的生活習慣	着替えは自分でできるが、表裏をたまに取り違えることがある。指示があれば、脱いだ衣服をたたむことができる。 排便が自立していない。 入浴時に一人で頭を洗うことは難しい。(顔にお湯がかかるのが恐い。)				
意志交換能力	言葉を解してのコミュニケーションが成立するが、あまり相手の目を見て話をすることがない。				
集団参加能力	集団を意識しての活動は難しく、自分の興味を引くものがあると場を離れることが多い。 自分から友達に話し掛けることはあまり見られない。				
作業能力	指先を無意識に握っている。(手のひら側に折っている。)細かい作業の時も、握ったままになっていることがあるため、思うようにいかない。はさみは、直線であれば線を意識して、線に沿って切ることができる。曲線については困難である。				
知的能力	ひらがな、カタカナ、数字などの読み書きはできるが、単語としての理解や、数の概念は限られている。				
情緒・情操	突然衝動的になり、怒られている場面の会話を一人で繰り返し言い始めることがある。				
行動特徴	電車や車などの乗り物が大好きで、いろいろな乗り物の名前をたくさん知っている。 自分の興味のあるものに対してはかなり積極的で、他のことが見えなくなるときがある。 全体的におっとりとしていて、友達から危害を与えられても動じない。				
保健・医療情報	H7. 5月 便のことで校医の紹介により○病院へ(1回のみ) H7. 10～ ○病院へ。排便を促す薬を服用中。				
保護者の要望 本人の願い	〈生活面〉 基本的習慣を身に付けさせ、確実なものにする。 学校生活に早く慣れ、一日の流れを把握する。 ルールに応じて、何事にも積極的に取り組める。	〈学習面〉 普段の生活や遊びを通しての、正しい言語の使い方を学んでほしい。 一段ずつ確実に積み重ねていってほしい。	〈行動面〉 危険な場所には近付かないようにする。 自分の役割をきちんと行なう。責任感ある態度律動的に行い、次への移行をスムーズにする。		

(様式2)

平成8年度 長期個別指導目標

小学部 3年 ○組	氏名 ○○○○	作成者 ○○○○	作成日 8年 ○月 ○日
場面	学 校		家 庭
領域	指導目標及び指導の場（個別または集団）		目 標
健康・体力	<ul style="list-style-type: none"> うがい、手洗いが一人でできる。 (日生 個別) 楽しんで運動することができる。 (朝の運動、体育 個別) 		<ul style="list-style-type: none"> 帰宅後はうがい、手洗いをする。
基本的生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ◎排便が自立できる。 (日生 個別) ○着替えた洋服をきちんとたたんてしまうことができる。 (日生 個別) 		<ul style="list-style-type: none"> 排便の自立。 一人で着替えができる。
意志交換能力	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの場に応じた言葉の使用ができる。 (国語及び各学習の場 個別・集団) ◎相手の話を聞くことができる。 (各学習の場 集団) 自分の気持ちを伝えることができる。 (各学習の場 集団) 		<ul style="list-style-type: none"> 学校であったことなどを、思い出して話すことができる。 挨拶ができる。
集団参加能力	<ul style="list-style-type: none"> 友達を意識して活動することができる。 (学部・ブロックでの学習 集団) ○自分から関わりを持つことができる。 (学部・ブロックでの学習 集団) 		<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒に外出を楽しむことができる。
作業能力	<ul style="list-style-type: none"> 手指の功徴性を高める。 線を意識してはさみを使うことができる。 (図工、生単など 個別) 一対一の対応ができる。 (算数、図工、生単など 個別) 		<ul style="list-style-type: none"> ワープロやパソコンで、楽しく遊ぶことができる。
知的能力	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習態度の改善を図る。 学習=嫌い、やらないから、学習=楽しい、やってみようへの転換。 (各学習の場 集団・個別) ○言葉としての文字の獲得を図る。(国語 個別) ・文字と数の対応。(算数 個別) ・日付、曜日。(朝の会 個別) ・金銭。(算数、校外学習 集団・個別) 		<ul style="list-style-type: none"> 決まった時間に宿題をする。 日付、曜日、時間を見ることができる。 簡単な買物ができる。
情緒・情操	<ul style="list-style-type: none"> ◎突然的な行動を減らし、落ち着いて行動することができる。 (日常生活全般 集団・個別) ・感情表現を豊かにし、少しづつ感情のコントロールをはかることができるようとする。 (日常生活全般 集団・個別) 		<ul style="list-style-type: none"> 家族と落ち着いて会話ができる。 家族と一緒に楽しく遊ぶことができる。

◎最優先目標 ○優先目標

※ 7領域あげたすべての目標の中から最優先目標、優先目標を決める。

平成8年度 個別年間指導計画

小学部 3年 ○組		氏名 ○○○○	作成者 ○○○○	作成日 8年 ○月 ○日				
場 領 域 月	学級	学部・学級					グループ	
	日常生活の指導	体育	音楽	あそび	図工	生活単元	国語	算数
目標	①排便の自立。⑥日付、曜日 ②着替えたものをきちんと整理する。 ③うがい、手洗いの確立。 ④楽しんで運動する。 ⑤落ち着いて行動する。	①楽しんで運動する。 ②友達を意識することができる。 ③相手の話を聞くことができる。	①感情表現を豊かにし、少しづつ感情のコントロールをはかる事ができるようになる。	①友達を意識することができる。 ②自分から関わりを持つことができる。	①自由に絵を描くことができる。 ②手指の巧緻性を高める。	①友達を意識することができる。 ②学習態度の改善 ③自分の気持ちを伝えることができる。	①場に応じた言葉の使用ができる。 ②言葉としての文字の獲得。	①文字と数の対応 ②金銭 ③一対一の対応ができる。
4	学校生活に慣れ、生活のペースをつかむ	①のびのびと体を動かす ・サーキット運動	①友達や先生と一緒に歌を歌ったり体を動かす ・今日から友達	①友達と同じ場所で遊ぶ ・乗り物あそび	②簡単なおもちゃを作り、工作の楽しさを知る ・飛行機 ・車	①友達と仲良く遊ぶ ・学校の遊具で遊ぼう ・公園で遊ぼう ②友達や教師の話を聞く ・運動会をしよう	①元気に挨拶する	①10までの数の数字を書いたり、読んだりする
5	朝の会等で、日付・曜日を調べ黒板に記入	②友達の動きを真似する ・器械運動	①自分の好きな歌を大きな声でうたう ・線路はつづくよどこまでも ・おもちゃのチャチャチャ	①友達の名前がわかる ・ごっこあそび ②友達の名前を呼べる	①いろいろな色使いに慣れ、描く楽しさを知る ・にじを描こう	③ごっこ遊びを通して自分なりの表現をする ・基地を作って遊ぼう	①②自分の好きな本を楽しんで読んだり聞いたりする	③ボーリングゲームで倒したピンを数える
6	外から帰ってきたら、うがい手洗いをする	③ルールを意識して活動する	①みんなの前で、恥ずかしがらずに歌を歌う ・森のくまさん ・赤鼻のトナカイ ・みんなともだち	①友達と同じおもちゃで遊ぶ ・おもちゃ作り	②自分なりに工夫しながら作品を作る ・水に浮かぶおもちゃ	①宿泊学習を通して、友達同士の関係を深める	②ひらがなやカタカナの読み書き	②お金の種類を知る
7	自分の持ち物の管理(どこに何があるかがわかる)	④サッカー ・ゴルフ	②おもちゃの貸し借りをする ・お店やさんごっこ	②粘土遊びを通して感触に慣れる ・紙粘土	②自分の役割を意識する ・内養祭をしよう ・お楽しみ会をしよう	①正しい発音や、大きな声で本を読む	①10までのたし算ひきざん	
9	走る会に向けて、目標を持って朝の運動に取り組む	②友達と一緒にルールのあるゲームに参加する ・フットベースボール	②いろいろな形に紙を切る ・版画 ・まんが王国を作ろう	②友達に自分の気持ちを伝える	①一年間の学習を振り返る	②年賀状を書く		
10								
11								
12								
1	日直の仕事を理解し、朝の会の司会を一人でする	①音楽に合わせて楽しく体を動かす ・リズム運動 ・柔軟運動					①②劇遊びを通して、動作と言葉を結びつける	
2								
3								

平成8年度第1学期 短期個別指導目標・計画・評価

部・年・組	小学部 3年○組	作成者	○ ○ ○ ○	作成日	8年 ○月 ○日
氏名	○ ○ ○ ○	評価者	○ ○ ○ ○	記入日	8年 ○月 ○日
指導形態(単元・題材名)	日常生活の指導(排泄指導)				
指導期間	平成8年 4月 10日(水)～ 平成8年 7月 15日(月)				

指導目標

- 一人でトイレに行き、排便することができる。

指導計画(スマールステップで計画するようにする)

4月10日(水)～4月15日(月)	トイレの場所がわかる。
4月16日(火)～4月20日(土)	便がでたという気持ち良さがわかる。
4月22日(月)～4月30日(火)	我慢しなくてもいいということがわかる。
5月 1日(水)～5月24日(金)	一緒にトイレへ行き、ドアを挟んで一緒になって力んであげる。(楽しい雰囲気)
5月27日(月)～6月20日(木)	「うんちでる」と言えるようになる。
6月21日(金)～7月15日(月)	一人でもトイレへいける。
6月29日(土)～7月15日(月)	一人でお尻が拭けるようになる。

指導の手立て及び教材教具

・小学校で生活していた本児は、毎日時間に追われ、自分のペースで活動ができずにいた。排便についても、そのような日頃のストレスからくる精神的なものと考え、まずは学校生活に早く慣れ、心の安定を図れるように配慮した。その上で、排便できたときの気持ち良さや、我慢しなくても良いということを知ってもらえるように、本児の体調や、家庭での排便の有無を配慮したうえでの生活時間に合わせた定時排泄を促していった。

- ①学校探険を行い、ゲーム形式で各教室の名前を覚える。さりげなくトイレの場所を確認させる。
- ②漏便をしたときでも、叱るのではなく、「うんちでてよかったね」「お腹の中すっきりしたでしょ」というように、大便がでたということを自覚してもらえるようにした。大便をすることによって今まで張っていたお腹がすっきりしたという気持ちを感じてもらえばと考えた。
- ③休み時間等にかかわらず、時間を気にせずに大便がでそうになったらトイレへ行ってもいいということを知らせる。
- ④トイレで便器に座れるようになってきたことから、楽しい雰囲気で排便できるように、力むタイミングをつかませる。排便できたときには、賞賛する。
- ⑤連絡帳や、毎日の記録から本児の排便のペースを考え、「うんちでる?」の声かけで自分からトイレへ行く習慣を付けていった。「うんちでる」と言えた時には、「よく教えてくれたね、ありがとう」と讃美、一緒にトイレへ行くようにした。
- ⑥今までより少し離れたトイレの外で待つようにして、安心感を持たせながら、一人でも便器に座って排便できるという自信を付けさせていった。排便の後は、必ず賞賛するようにしていった。
- ⑦排便後に、トイレットペーパー自分で切らせ、自分なりにお尻を拭かせる。忘れずに拭いたという行動を讃美し、きれいに拭くとパンツに便が付かないということを理解させる。

指導の経過及び結果

- ・新学期が始まったばかりの頃は、パンツに便が付いていたり、物陰に隠れての漏便が多かった。(毎

日漏便していた)しかし、学校生活にも少しづつ慣れ、自分のペースで活動できるようになってからは不安そうな眼差しもなくなり、2週間後には、時々トイレでの排便が成功するようになってきた。

・現在は、「うんちでる?」の声かけに「うんちでない」「うんちでる」の返答ができるようになり、トイレへ入ることを嫌がらなくなっている。パンツへの少量の漏便も減り、付いてしまった場合は、「うんちでちゃった」と、自分から言えるようになった。時々何も言わないで一人でトイレへ入り、排便してから「うんちでたよ」と、教師を呼ぶこともある。

・一人でお尻を拭いてトイレから出るということはまだ出来ないが、教師が一緒にについて拭き方を教えていけば、徐々に可能性は出てくるものと考える。

①小学校のトイレと違い、教室の間にあるということに興味を示していた。便器も洋式で、1つしかないことから、安心してゆっくり出来るということをわかってもらえた。ドアも全体が締切ではなく、上下に隙間があることから、閉めても恐くないことがわかった。

②最初は漏便すると怒られるのではないかという警戒心があり、「うんちでてない」と、パンツの交換を嫌がっていたが、次第に「うんちでちゃったの」と言えるようになってきた。

③授業中モジモジしだしたり、フラフラ出歩いて教室の隅等にいっているときに声かけをし、反応があれば一緒にトイレへ行くということを繰り返すうちに、教師側も本児の排便をもよおしている表情がわかるようになり、タイミングよく排便できることが多くなった。

④最初は、一人で力んでいる指導者をじっと見ているだけだったが、何度か繰り返しているうちにニコニコしながら自分でも真似していた。2回目からは、便器に座ると、目で要求し、声を出して笑いながら力んで排便することができていた。

⑤最初は、「うんちでる?」と聞いても、「でない」といって漏便することもあったが、次第に「先生うんち」「うんちいってみる」と、伝えることができるようになってきた。時々遊びに夢中で漏便することもあるが、言葉と行動が一致し、大便の自覚も付いてきている。

⑥調子のいいときには、一人でトイレへ行って排便し、「先生うんちでた」と、伝えることができるようになってきた。

⑦お尻を拭くことに関しては、まだ忘れてしまうことが多く、排便後のチェックが必要とされる。

指導の反省及び課題

・本児に対する排泄指導においては、リラックスして、トイレで排便できるように定時排泄にこだわらず、生活パターンに応じた排泄を促していった。その結果、排便の時間は一定していないが、便意に応じてトイレへ行くことができるようになってきている。休み明けなどは時々漏便があるので、家庭との連携をもっととりながら、排泄行動を身につけていかねばと考える。

4月からの指導において、本児は、排便の自覚が付き自分からトイレへ行ってみようとする態度も見られるうになってきた。このことは、生理的なものもさることながら、本児の生活環境の変化も大きな要因になっているのではないかと考える。自分のペースで排便できるという安心感が、排便に対する強いストレスを軽減させているものと考える。以前、大便をがまんすると開いたままになっていた肛門も最近では閉じていることの方が多くなってきた。

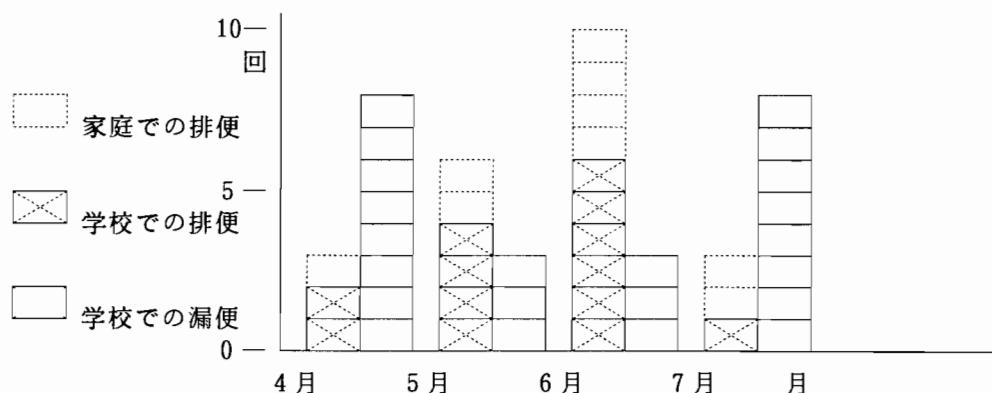


図1 排便の成功回数と漏便回数

* 4月当初に比べ、6月段階ではかなり排便の成功率が高くなっている。7月に入り体調を崩したせいでプール学習からのストレスで漏便が多く見られている。

(4) 中学部3年の事例

(様式1)

プロフィール

記入者	○○ ○○	記入日	平成8年 ○月 ○日		
氏 名	○○ ○○	学 年	中・3 生年月日 昭和57年○月○日(14歳)		
障 害 名	モヤモヤ病	性 別	男		
家 庭 の 状 況 家族構成	祖父母(農業), 母(会社員), 本人の4人家族。のびのびと成長できるような配慮や努力が感じられる家庭である。				
生 育 歴 (相 談 歴)	歩き始めは1才, 同時期に発病。現在も定期通院している。昭和63年○小学校入学。平成2年特殊学級入級。平成6年本校中学部進学。				
これまでの指導 指導目標及び達成度	十分に考える時間を与えたことで、これまでやろうとしなかったことにも、工夫して取り組もうとする態度が見られてきた。				
実 態	健 康・体 力	諸 検査 田中・ビネー知能検査 IQ 54 S-M社会生活能力検査 SQ 61			
	基本的生活習慣	モヤモヤ病により左半身のマヒが見られる。体重が増え左足への負担が大きくなつたため、足部の変形が見られてきている。また、激しい運動により発作が起きることもある。今まで体育の授業等では、他の生徒と同様に活動しているが、発作は見られない。			
	意志交換能力	身辺自立はできており、通学はバス停まで自力で通っている。1日の日程を見通し、時間を気にしながら生活することができる。自主的に活動し、よりよく生活しようとする姿勢が見られる。			
	集団参加能力	・言語による会話が成立するが、数的な内容になると難しい。 ・報告等の決められた内容であれば行えるが、質問や状況説明等の臨機応変の対応が求められる場合は難しい。			
	作 業 能 力	自主的に集団に参加し、活動することができる。同じ活動で慣れた集団であれば、リーダーシップをとることができる。はじめてのことに対しては、ヒントを与えれば、自分なりに考え方行動に移そうとする。			
	知 的 能 力	単純な作業を長時間行うことができる。マヒがあるために細かい作業は難しいが、自分なりに工夫して行おうとする姿勢が見られる。困難な課題にあつたときに、あきらめてしまうことが多い。			
	情 緒・情 操	簡単な十位数の加算ならできるが、減算は難しい。長さや重さの概念はまだ未熟である。板書された内容を筆記することができる。また、自分で思ったことや考えたことを、作文などに表現することができる。			
	行 動 特 徴	感情の起伏が少なく、精神的に安定している。			
保 健・医 療 情 報	特記事項なし				
毎月1回通院し、検査を受けている。					
保 護 者 の 要 望・ 本 人 の 願 い	本人は、中学部卒業後に就職もしくは家の手伝い(農業)をしたいと希望しているが、保護者は高等部に進学させたいと考えている。				

(様式2)

平成8年度 長期個別指導目標

中学部 3学年○組	氏名 ○○ ○○	作成者 ○○ ○○	作成日 平成8年 ○月 ○日
場面	学 校	家 庭	
領域	目標及び指導の場（個別又は集団）	目 標	
健 康・体 力			

(中 略)

作業能力	○完成品のイメージを持ち、長い工程の見通しを持ちながら活動することができる。 ○困難な課題に対して、自分なりに工夫し積極的に取り組むことができる。 (作業学習、集団場面)	
------	---	--

(中 略)

情 緒・情 操		
---------	--	--

◎最優先目標 ○優先目標

(様式3)

平成8年度 個別年間指導計画

中学部 3学年○組	氏名 ○○ ○○	作成者 ○○ ○○	作成日 平成8年 ○月 ○日			
学級	学部・学年	グループ	個別指導	家庭		
月	作業学習 (木工班)					
目標	・さしがねを使い正確に採寸することができる。 ・周囲の様子に気を配り、班長の自覚が持てる。					
4	すのこ作り					
5	↓					
6	ペンスタンド作り					
7	↓					

(中 略)

1											
2											
3											

(様式4)

平成8年度第2学期 短期個別指導目標・計画・評価

部・年・組	中学部 3年〇組	作成者	〇〇 〇〇	作成日	平成8年〇月〇日
氏名	〇〇 〇〇	評価者	〇〇 〇〇	記入日	平成8年〇月〇日
指導形態(単元・題材名) 作業学習(ペnstandを作ろう)					
指導期間	H. 8年 9月 3日(火) ~ 8年 12月 6日(金)				
指導目標 ・さしがね(定規)を使って、どうしたら正確な直線が引けるかを考えさせる。					
各段階の評価 (80%以上合格、次のステップへ)					
<p>①採寸後、切断したものの見本と合わせ、合致するか確認する。</p> <p>②さしがねの端を意識して材料に合わせ、15cmの位置に正確に点を打つことができる。</p> <p>③15cmの位置に、正確に採寸できる。</p> <p>④1cm単位で、目盛りを読むことができる。</p> <p>⑤1cm単位で、指示された長さに点を打つことができる。</p>					
指導計画					
9月3日(火)~9月6日(金)		見本板の端を材料に合わせ、線を引くことができる。			
9月10日(火)~9月24日(火)		さしがねの0cmと15cmの位置がわかり、さしがねの端を材料の端に合わせることができる。			
9月27日(金)~10月11日(金)		15cmの位置に2点打ち、2点を結ぶ直線を引ける。			
10月18日(金)~11月8日(金)		1cm単位で、目盛りを読むことができる。			
11月15日(金)~12月6日(金)		1cm単位で、目盛りがわかる。			
指導の手立て及び教材教具					
見本板やさしがねを使い、その端と材料の端を正確に合わせることを手がかりに、0cmを知らせる。指定された位置(15cm)に印を付けることを通して、長さの計り方を確実に身に付けさせる。					
指導の経過及び結果					
<p>①、②ともに、マヒがありながらも、見本板やさしがねの持ち方や押さえ方を工夫しながら行っていた。端は「0」であることが分かり、15cmの位置に1~2mmの誤差で点を打てるようになってきた。</p> <p>③の2点のうち、1つの方はさしがねを押さえるのが難しいせいか、誤差が大きくなり、斜線になることが多い。そこで、さしがねの向きを変えることで端を合わせる部分を多くし印を正確に付けられるようにした。</p> <p>④、⑤では、1cm単位で「目盛りを読む・印を打つ」練習をした。指示が「15cm」であれば印を付けることもできるが、それ以外の位置に自由に印を付けるという応用力は乏しい。</p>					
指導の反省及び課題					
<p>まだ、目盛りを読む練習と、目盛りを使った課題は必要であるが、今までの指導計画を立て、だいたいのところ予定通り進んだ。マヒのため左手でさしがねを押さえることが難しいとき、特に補助をせず、自分のやりやすいように考えさせたことで、1人でできるようになった。また、そのことで自信がつき、他の班員に対してリーダーシップをとれるようになってきている。</p>					

プロフィール		記入者 ○○ ○○	記入日 平成8年○月○日
氏名	○○ ○○	学年 高1年	生年月日 昭和55年○月○日(16歳)
障害名	精神薄弱	性別 女	
家庭の状況 家族構成	父、母、姉(高3)、本人 父親は仕事の都合で留守になることがある。 休日には母親と買い物に出かけたりする。		
生育歴 (相談歴)	S 62.4月○小学校入学 H 1.4月特殊学級入級 H 5.4月○中学校入学・特殊学級入級 H 8.4月○養護学校入学		
これまでの指導目標及び達成度	掃除や係の仕事に進んで取り組むことを目標に指導し、積極性がみられてきた。	諸検査	田中ビネー知能検査 IQ 56 S-M社会生活能力検査 SQ 100以上
実態	健康・体力	脊柱側弯症の手術・治療のため中学校1・2年の体育の授業は見学していたが、基本的な運動はできる。器械運動等の肉体的に負担のかかる運動に対しても積極的に取り組むようになってきている。疲れやすい。	
	基本的生活習慣	食事については偏食はあるものの着脱、排泄、洗面等自立できている。言われば整理・整頓ができる。	
	意志交換能力	環境に慣れるまでに時間がかかる。発音が不明瞭であるが、周囲の人には積極的に話しかけようとする。質問されたことに対して、言葉を使って応えることができる。	
	集団参加能力	運動に対しては消極的であるが、集団を理解し進んで参加できる。集団生活に必要なマナーやルールを守ることができトラブルを起こすことはない。	
	作業能力	ハサミ、ナイフなどの簡単な道具をその用途に応じて使うことができる左利きであり、針や包丁の使い方には慣れていない。よりよいものを作るために、工夫して作業に取り組む姿がみられてきている。	
	知的能力	小学校中学年で学習する漢字の読み書きができる、それらを正しく使って経験したことを主語と述語を使った短い文章に表すことができる。時計を使い正確な時刻がわかる。買い物の際に必要な額を支払うことができる。	
情緒・情操	美しいものや物語りに対して自分なりの感想をもち話すことができる。困ったことがあると涙を流し泣いてしまう幼さが見られる。		
行動特徴	明朗、快活であり責任感もある。負けず嫌いな面があり、マラソン等に全力で取り組む。行動力も少しずつついてきている。		
保健・医療情報	耳鼻科通院(月1回通院) 右45db 左38.75db 側弯症診断(年1回通院)		
保護者の要望・本人の願い	金銭の扱いについては、衣類の購入など1万円程度の扱いができる。日時については、何日前・後や何時間前・後、何分前・後を理解できるようになって欲しい。裁縫など自分でできることを増やして欲しい。就職希望。		

平成8年度 長期個別指導目標

(様式2)

高等部1年○組	氏名 ○○ ○○	作成者 ○○ ○○	作成日 8年○月○日
場面 領域	学 校		家 庭
	指導目標及び指導の場(個別又は集団)		目 標
健 康・体 力	進んで身体を動かすことができる。(学部) ○レクリエーション的なスポーツの技能を高め ることができる。(学部)		自宅から駅までの区間を自転 車を使って登校する能够 性。
基本的生活習慣	初対面の人に対してもあいさつができる。(学部) 自分の使う教室を進んで掃除をし、飾る能够 性。(学級)		定期的に自分の部屋をきちんと 掃除をする能够性。
意志交換能力	経験したことを順序だてて、相手に分かるよう に話す能够性。(学級) 時事に興味を持ち、テレビや新聞を利用する 能够性。(グループ)		学校での出来事を具体的に話 す能够性。
集団参加能力	スポーツやゲームのルールに従い、積極的に参 加する能够性。(学部) 集団活動を計画し運営する能够性。 (学部)		中学時代の友達等に手紙等を 利用して、かかわる能够性。 地域の行事に参加する能够性。
作業能力	調理器具の正しい扱い方を理解し、簡単なおや つを作れる能够性。(グループ) まかされた仕事を責任を持って、最後まで行う 能够性。(学級・グループ)		簡単なおかずを作れる能够性。
知的能力	自分の考えを文章に書き表す能够性。 (グループ) ○加法や減法を利用し、金銭の処理や日時のつ ながりが理解できる。(グループ)		一人で買い物に行き、生活に 必要な衣類や食料品を購入す れる能够性。
情 緒・情 操	物語りを読み感想を述べる能够性。 (グループ) 他人の気持ちを思いやり、行動する能够性。 (グループ)		

○最優先目標

○ 優先目標

※ 7領域にあげたすべての目標の中から最優先目標、優先目標を決める。

平成8年度 個別年間指導計画

部・年・組		高等部1年○組	氏名 ○○ ○○	作成者 ○○ ○○	作成日 8年○月○日	
	学級	学部・学年・グループ				家庭
月	L H R	体育	数学	生単 活元	作学 業習	
目標	略	ルールを理解し、進んで取り組むことができる。	加法、減法を生活の中で生かすことができる。	簡単なおかずやおやつを作ることができる。	責任を持って自分の仕事に取り組むことができる。	略
4	【短距離走】 練習タイムを設定し練習する。 50M走・リレー 【マット運動】 できる技を増やし連続して行う。 前転 開脚前転等 【リレー】 ルールを理解し協力して取り組む。 ・折り返しリレー等 【ボールゲーム】 ゲームに関心をもち進んで取り組む。 ・大玉ゲーム ・ソフトバレーボール等 【バスケットボール】	【大きな数】 ・電卓を利用し、4桁の加法、減法を行う。	【ホットプレートを使った調理】 必要な材料や道具知り、準備する。 ・お好み焼き等	【室内での紙すき】 ・基礎練習 働くための基本的態度を知る。 全作業工程の体験を通して自己の適性を知る。 【はがき作り】 必要に応じて報告や質問をする。		
5		【計算にチャレンジしよう】 ・電卓を利用し乗法、除法の計算に慣れる。 【はやってみよう】 ・いろいろな測定器具を使って計測する。	【できる調理をふやそう】 作り方を読み調理する。 ・プリン・ゼリー ・インスタント ・レトルト食品等	【カード作り】 すぐ枚数を決めて取り組む。		
6		【時計・温度 ・長さ・重さ等】		【朝食の準備】 簡単な卵料理の実習を通し調理への興味を高める。 ・献立の考案 ・調理	【賞状作り】 すぐ枚数を決めて短時間で作業を進める。	
7					他の作業を手伝う等協力し取り組む。	
9						
10						
11						
12						
1						
2						
3						

※他の教科・領域については略

平成8年度第2学期 短期個別指導・目標・計画・評価 (様式4)

部・年・組	高等部1年○組	作成者	○○ ○○	作成日	8年○月○日								
氏名	○○ ○○	評価者	○○ ○○	記入日	8年○月○日								
指導形態	数学	単元・題材	はかってみようー時計の活用ー										
指導期間	8年 9月 4日(水) ~ 8年 10月 11日(金)												
指導目標 •時計や加法、減法を使って時間(時刻)の計算ができる。 •時刻を意識して、生活する態度を養う。													
指導計画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">9月 4日(水) ~ 9月 6日(金)</td> <td style="padding: 5px;">△分 前・後の時刻が分かる。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">9月 11日(水) ~ 9月 27日(金)</td> <td style="padding: 5px;">○時間△分 前・後の時刻が分かる。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">10月 2日(水) ~ 10月 4日(金)</td> <td style="padding: 5px;">○時△分 - □時×分が分かる。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">10月 9日(水) ~ 10月 11日(金)</td> <td style="padding: 5px;">休日の予定を交通機関の時刻に合わせて計画することができる。</td> </tr> </table>						9月 4日(水) ~ 9月 6日(金)	△分 前・後の時刻が分かる。	9月 11日(水) ~ 9月 27日(金)	○時間△分 前・後の時刻が分かる。	10月 2日(水) ~ 10月 4日(金)	○時△分 - □時×分が分かる。	10月 9日(水) ~ 10月 11日(金)	休日の予定を交通機関の時刻に合わせて計画することができる。
9月 4日(水) ~ 9月 6日(金)	△分 前・後の時刻が分かる。												
9月 11日(水) ~ 9月 27日(金)	○時間△分 前・後の時刻が分かる。												
10月 2日(水) ~ 10月 4日(金)	○時△分 - □時×分が分かる。												
10月 9日(水) ~ 10月 11日(金)	休日の予定を交通機関の時刻に合わせて計画することができる。												

指導の手立て及び教材教具

- 5, 10分であれば、時計を使って、前・後の時刻を調べることができるので、さらに細かく長針を動かして前・後の時刻を調べる。
- 時計を使って調べたことを計算を使って確かめ、計算で求められることを気づかせる。
- 秋の遠足を通して生活と時刻を結びつけ、多くの場面で時刻を意識した行動を身につけさせていく。

指導の経過及び結果

○分から△分過ぎ(前)の時刻は計算で正しく求めることができたが、○時間△分過ぎ(前)の時刻は、1時間が60分であることは分かっていたが、繰り上がりや繰り下がりのある計算がまだ難しく、時計を操作して調べることがほとんどであった。本生徒の実態から、計算で求められる問題に対しても時計を利用して調べようとする様子がみられた。

○時△分 - □時×分の計算は秋の遠足の日程表を利用して学習した。時計を利用することでほぼ正確に移動や通学にかかる時間を調べることができた。「お母さんと一緒に水戸に行こう」という課題を設定し、休日の計画を立てさせた。往復の電車の時刻を調べ、約3時間の計画を立てた。

指導の反省及び課題

時計を使って、前・後の時刻を調べられると、苦手な計算への取り組みが消極的になってくるので時刻を教材として加法・減法を学習させるよりも加法・減法をドリルで繰り返して、繰り上がりや繰り下がりのある計算に自信を持たせてから、時刻や時間の計算で活用させた方が効果があると考える。

日常生活でも生かせることを期待して、日程表や予定表作りとり入れたことで興味をもって取り組むことができた。今後、長い、短いの比較だけでなく、時間の概念を生活の中で意図的に指導していく必要がある。